

## 獅子

狂おしい悲しみに獅子は吼え猛び  
その叫びは全ての音を静寂の中に従えながら  
はるかに高い空を渡ってゆく

苦々しい生と対決してそれを噛んだ  
自分の生であった、そして  
その生を噛んだ瞬間に見てしまったのであった  
その幸福そうな微笑と潤んだ瞳を  
深い深い愛の中に彼女が落ち行くのを  
ああ、その姿の何と哀しく優しく幸福げだったことが

獅子はこみ上げてくるものに呆然とし  
思わず熱い涙を溢れさせてしまった  
そして彼はむせび泣いたのだ、そして  
そしてそのまま石となった

僕は祖生の獅子の叫びを見ると  
ますます重くなった足を引きずり  
深々と、歩き出す気になった

(1982.6.2)